

赤煉瓦倶楽部舞鶴									
会報127号 令和6年(2024年)7月16日					赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報 発行人/会長 吉岡博之 編集人/小野 章 〒625-0062 舞鶴市森973番地の1 FAX/0773-63-9764 E-mail brick7388@yahoo.co.jp				
「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/									

目次

1. 令和6年度通常総会報告 2. 第12回近代化遺産視察旅行の報告 3. 赤れんが博物館・舞鶴線開通120年企画展とある写真のこと	4. 海軍機関学校教官・芥川龍之介
--	-------------------

1. 令和6年度通常総会報告	会長 吉岡博之
-----------------------	----------------

令和6年5月12日(日)、令和6年度赤煉瓦倶楽部舞鶴の通常総会を開催しました。以下4議案を審議し全員異議なく承認されましたので、その概要を報告します。

第1号議案 令和5年度事業報告 (会報で主な事業は報告済みのため省略します)

第2号議案 令和5年度決算報告 以下の通りです。

収入の部

科目	金額(円)	備考
1 会費収入	43,000	個人45名、次年度前納等含む
2 事業収入	1,506,915	海軍レシビ販売、視察参加費ほか
3 寄付金収入	7,241	寄付金
4 雑収入	4	受取利息
当期収入合計(A)	1,557,160	
前期繰越正味財産額	482,278	
収入合計(B)	2,039,438	

支出の部

科目	金額(円)	備考
1 事業費	1,382,520	海軍レシビ印刷、視察バス代ほか
2 管理費	199,300	旅費交通費、会報印刷費、労務費ほか
—	—	—
—	—	—
当期支出合計(C)	1,581,820	
当期支出差額	-24,660	(A)-(C)
次期繰越正味財産額	457,618	(B)-(C)

第3号議案 令和6年度事業計画

令和6年度も引き続き、本会の目的を達成するため、主に以下の事業を実施することとしました。

- ①官設鉄道舞鶴線開通120周年記念事業の開催、②温もりのある廃校木造校舎の見学会(9月又は10月)、③市外視察旅行(神戸市等)6月1日実施済、④倶楽部会報の発行、その他。

第4号議案 令和6年度事業会計予算 以下の通りです。

収入の部

科目	金額(円)	備考
1 会費収入	41,000	個人45名 前納4名
2 事業収入	865,000	視察参加費、海軍レシビ販売ほか
3 寄付金等収入	10,000	寄付金
4 雑収入	1,000	受取利息等
当期収入合計(A)	917,000	
前期繰越正味財産	457,618	
収入合計(B)	1,374,618	

支出の部

科目	金額	備考
1 事業費	659,000	視察費用、海軍レシビ印刷ほか
2 管理費	224,000	会報印刷費、交通費等
—	—	—
—	—	—
当期支出合計(C)	883,000	
当期支出差額	34,000	(A)-(C)
次期繰越正味財産額	491,618	(B)-(C)

さる6月1日(土)兵庫県の芦屋市と神戸市近代化遺産の視察旅行を実施しました(参加者24名)。快晴のなか朝8時に東舞鶴を発したバスは、有馬町経由で六甲山を超える芦有ドライブウェイを通り10時半過ぎ芦屋市の「ヨドコウ迎賓館」に到着しました。F・L・ライト設計になるこの建築は、1918年に山邑家住宅として発注され、ライト帰国後は弟子である遠藤新らが引き継ぎ百年前の1924年に完成させたもので、国の重要文化財に指定されています。その後(株)淀川製鋼所が引き継ぎ1989年から現在の名称で一般公開しています。内部は、ライト設計の旧帝国ホテルを想起させるデザインの窓や家具を参観し、屋上のバルコニーから芦屋市街と大阪湾を展望できます。

続いて、神戸市へ移動し南京町で広東料理の昼食をとった後、兵庫区の「湊川隧道」に移動、視察しました。昔の湊川はいわゆる天井川で度重なる水害で交通の妨げとなり港湾にも悪影響を及ぼしたので、1897年に地元有志が湊川改修会社を設立し、1901年に日本初の河川トンネル「湊川隧道」を完成させました。煉瓦積み・御影石敷き・断面は馬蹄形・全長670mのものです。膨大な量の使用煉瓦は大阪泉州地域で生産され海路運ばれたとのこと。隧道は、

1995年の阪神・淡路大震災で損壊を被り、新たに造られた大口径の「新湊川トンネル」にその機能を譲り、現在はその歴史的価値を残すため保存され、湊川隧道保存会が月2回の公開活動を行っています。

その後、一行は中央区にある「旧神戸居留地十五番館」を訪問、外観を見た後、隣接する「旧神戸居留地煉瓦造下水道」を視察しました。十五番館は1880年頃米国領事館として建てられたもので、その後商館として使われました。館は1995年の大震災で倒壊したものの1998年には復元され、国の重要文化財になっています。煉瓦造下水道は雨水と家庭排水を流すもので、1872年頃に英国人技術者J・W・ハートによって設計・施工されました。使用煉瓦は明石製とされています。この種の下水道は日本最古のもので同時期に横浜の居留地にも設置されました。なお、十五番館の東側の筋向かいにある神戸市立博物館(旧横浜正金銀行神戸支店)には、先の大戦中の米軍戦闘機の機銃による多数の弾痕跡が残されていました。一行はその後、JR新神戸駅近くの「竹中大工道具館」を訪問し、日本や世界の木工道具や技術を見学した後、駅舎内のアントレマルシェでお土産を購入し舞鶴への帰路に就きました。



ヨドコウ迎賓館入口



迎賓館内見学の様子



迎賓館屋上見晴台



湊川隧道入口



湊川隧道内部



隧道内で記念写真



南京町で



十五番館横の煉瓦造下水道



神戸市立博物館前で

3. 赤れんが博物館 舞鶴線開通120年企画展とある写真のこと

矢野江美子（会員）

舞鶴線開通から120年を記念して、今年10月と11月、赤れんが博物館では今なお現役で鉄道を支える舞鶴線のれんが建造物を紹介し歴史を振り返る企画展を開催します。この準備中、紙焼き写真を見返す中でれんが建造物の解体現場の写真（下記）が見つかりました。背景に舞鶴共済病院が写っているので建造物の場所が分かりましたが、時期などは不明でしたので博物館

の先輩である小野章氏に助言を仰いだところ、下記のように、ご回答と博物館所蔵の貝塚煉瓦や岸和田煉瓦の刻印を持つれんがの採取場所であることもお教えいただきました。街中で解体されるれんが建造物は、舞鶴の歴史の証人です。企画展ではこの中舞鶴線のれんがも展示しますのでご期待ください。

「中舞鶴線の置き土産」

舞鶴線開設の目的は日露戦争の開戦に備えた兵站線の確保でした。即ち、工事の最終段階は、舞鶴海軍鎮守府に到達する軍港引込線（大正8年から中舞鶴線、昭和47年廃止）の完成でした。舞鶴線は明治37年10月に完成するのですが、開戦して既に約8か月が過ぎておりました。5年後の明治42年の市販地図（下記）を見ると、引込線は、新舞鶴駅の西側で分岐し、寺川を越えて舞鶴海軍工廠職工会共済病院（現在の舞鶴共済病院）東傍を通り、北吸の倉庫群へ向かっています。寺川はその後一部暗渠となります。この地域を平成4年以降に市が東舞鶴駅周辺地区土地区画整理事業として工事をした際に、煉瓦の建造物（下写真）が出土しました。位置的に寺川を越える架橋の基礎と推測できます。（小野）



れんが建造物の写真（赤れんが博物館所蔵）



明治42年の地図（部分）

海軍機関学校は、明治14年に横須賀に開校しましたが、大正12年の関東大震災で被災し、江田島を経て大正14年に舞鶴に移されました。

芥川龍之介は、東京帝大英文科卒業後、大正5年12月から約2年4か月同校の嘱託教官として働きました。彼は大学生時代に文壇デビューしていましたが、当面の生活基盤はこの学校にありました。当初の月俸は60円でしたが、後インフレで130円まで昇給しました。

大正7年には、海軍将校の娘・塚本文(ふみ)と結婚して東京から鎌倉の借家に移っています。因みに、文5歳の時父・塚本善五郎海軍少佐は、明治37年に旅順口攻撃時に乗艦していた戦艦初瀬が触雷・沈没し戦死しています。彼は海軍大学で秋山真之と同期でした。文の叔父・山本喜誉司が芥川の中学時代からの親友であったのが二人の交際につながったといわれます。

参考：「新考・芥川龍之介伝」(北沢図書出版)、「芥川龍之介の夢」(原書房)、「芥川龍之介全集」(新潮社)他

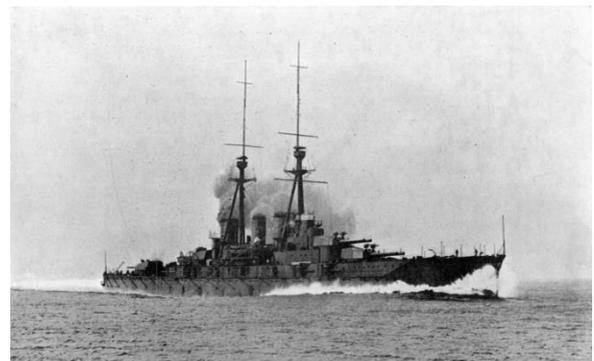
芥川は14歳の明治38年に、日本海海戦の勝利に感激し「海軍将校志望」と記したといわれますから、機関学校への就職や海軍将校の娘との結婚には、彼と海軍との縁を感じざるをえません。

彼は、作家としての努力をしつつも、英語の教授・指導も熱心に行っていたといえます。彼の同校勤務時の作品としては、「軍艦金剛航海記」と「蜜柑」があります。横須賀から山口県由宇(現岩国市)までの航海に乗艦した記録と通勤の体験に基づく短編です。

一方で彼の「蜘蛛の糸」にすぎた親族が多かったので、仮に森鷗外に倣い「二足の草鞋」を履き、大正14年の機関学校舞鶴移転以降も同校教官を続けていたら、一定収入も安定し、もう少し長く生き、舞鶴の風土を窺わせる作品も残せたのではと想像を逞しくします(彼は昭和2年死去)。



横須賀の海軍機関学校 (絵葉書写真)



巡洋艦・金剛 (芥川乗艦当時)

編集後記

舞鶴線について改めて調べると、名称の変遷には留意が必要と思う。新舞鶴駅からの軍港引込線は大正8年に中舞鶴線になり、中舞鶴駅ができた。舞鶴駅からの軍用引込線の舞鶴港での施設名は「舞鶴海岸荷取扱所」で、大正2年に海舞鶴駅、昭和41年に舞鶴港駅になった。大正13年に開通した新舞鶴駅から与保呂川沿いに延びる引込線の港の施設名は新舞鶴港駅で、昭和14年に東舞鶴港駅になった。町名の変遷による。資料で駅名とその時代が合致していないところもあり、地元の人でも面倒なのではと考えた。

本会の目的(要旨)：赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワーク交流と他市のまちづくり支援など。

会員の資格：会費納入者 年会費(個人1,000円、団体5,000円)。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付等 振込先：①ゆうちょ銀行 四四八店(ヨンヨンハチ店) 普通 3679505 口座名義 アカレングクラブマイツル
又は ②京都北都信用金庫 舞鶴中央支店 普通 口座番号0686767 口座名義 アカレングクラブマイツル